学校番号	２１２

令和３年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　改訂版　倫理　（第一学習社）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１．この授業は選択科目であり、「倫理」に関心・意欲の高い生徒が集まっていることから、積極的に発問し、生徒たちが考えることを重視する。したがって評価の項目として「思考・判断・表現」を重視する
２．思想家たちの思想の学習が終わるときに、生徒たちにとって身近な作品（音楽・本・漫画など）を紹介しながら、各思想が現代社会の中にも活かされていることを確認していく予定である

２　学習の到達目標

１．青年期における自己形成と人間としてのあり方・生き方について理解と思索を深める
２．人格の形成に努める実践的意欲を高める
３．他者とともに生きる主体としての自己を確立する
４．良識ある市民として必要な能力と態度をはぐくむ
５．古代ギリシャの思想から現代思想まで、洋の東西を問わず様々な思想家の思想を見ていくことで、社会を多角的に見られるようにする

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらに関わる諸課題を探求する態度を身につけ、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用し、学び方を身につける	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身につけている
評価方法	感想文	授業における教師からの発問に対する回答 定期考査	授業における史料読解の作業における取り組み 定期考査	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	1章　青年期の課題と自己形成 2章　人間としての自覚	①よく生きることを求めて	○	○			a:　私たちが人間としてどう生きていけば良いのかということや、青年期をいかに生きるかというテーマについて関心が高まっている 　古代ギリシャの思想が私たちにとってどのような意味を持つのか興味を持って探求しようとしている b:　人間らしく生きるとはどのようなことかを多面的に考察している 　古代ギリシャの思想が私たちにとってどのような意味あるかを考える c:　現代社会における青年期に関わる諸資料を収集し、その問題点を整理することができる 　ソクラテスがとった「問答法」について資料を読み、その構造をまとめることができる d:　他の生き物と区別される、人間の特質を理解している	授業時の発問 資料読解 ノート提出 テスト
		②青年期の課題						
		1．青年期とは何か		○	○			
		2．青年期の思考と感情	○			○		
		3．青年期の人間関係	○					
		4．青年期の自己形成	○	○				
		①ギリシャの思想						
		1．哲学の形成	○					
		2．ソクラテス		○	○			
		3．プラトン		○		○		
		4．アリストテレス		○		○		
1学期期末	2章　人間としての自覚	②キリスト教					a:　現代の政治や社会の動向にも深く関わる三大宗教への興味関心が高まっている b:　キリスト教が「愛の宗教」であると言われるのはなぜか、イスラームでは、宗教が政治と密接な関係にあるのはなぜか、仏教では仏教思想が現代社会においてどんな意義を持っているのかを考察しようとしている c:　キリスト教では聖書の文言を味わいながら、イスラームでは基本的な競技（六信・五行）を実感しながら、仏教では「ゴータマの言葉」を味わいながら、各宗教の教えを実感できる d:　各宗教の教え（キリスト教におけるアガペーや隣人愛、イスラームにおける六信・五行、仏教における縁起や四諦）がどのようなものか理解できる	授業時の発問 資料読解 ノート提出 テスト
		1．ユダヤ教の世界		○	○			
		2．イエス		○	○			
		3．キリスト教の発展	○			○		
		③イスラーム	○	○		○		
		④仏教						
		1．ウパニシャッド哲学		○	○			
		2．ゴータマの教説		○	○			
		3．仏教思想の展開	○			○		

2学期中間	2章　人間としての自覚 4章　現代に生きる人間の倫理	⑤中国の思想 1．中国の思想文化 2．儒家の思想 3．道家の思想 ②近代の科学革命と自然 1．近代の科学革命 2．経験論と合理論	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ 	a:　中国の思想がわれわれの生活に身近なものであることを知り、中国の思想に対する興味・関心が高まっている 　ベーコンやデカルトの思想を手がかりに，科学技術の発達と自然との共生について興味・関心が高まっている。 b:　中国思想が、歴史的に、日本へどのような影響を与えたのかを考え，私たちの現在にどのように関わっているのかを，多面的･多角的に考察しようとしている。 　科学技術の発展から、自然と人間の共生をめざす手がかりは何かを，模索しようとしている。 c:　『論語』から，中国の思想の根本を読み取ることができる。 　近代科学の発展につながった、ベーコンの帰納法やデカルトの演繹法について、その考え方を利用して考えることができる d:　孔子の政治思想を軸に，徳・礼・仁・孝・君子などの基本用語を理解している。孔子や孟子が説いた仁，老子や荘子が説いた道とは何かを理解している。経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを，自己の課題とつなげて理解している。	授業時の発問 資料読解 ノート提出 テスト
2学期期末	4章　現代に生きる人間の倫理	③自由で平等な社会の実現 1．社会契約の思想 2．人間の尊厳と自由 　　ーカント 3．人倫と自由の実現 　　ーヘーゲル 4．功利主義の思想 ④人間性の回復と主体性の確立 1．社会主義の思想 2．実存主義の思想	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ 	a:　国家・自由・幸福とは何かについて興味・関心を持っている b:　民主社会を実現した社会契約の思想について多面的･多角的に考察している 　カントやヘーゲルの自由観について考察している c:　漫画を通して、量的な幸福と質的な幸福の違いについて考察している d:　現在の政治的自由は，ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。 　現在の政治的自由は，西欧近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。 　ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解している。	授業時の発問 資料読解 ノート提出 テスト

3学期学年末	4章　現代に生きる人間の倫理	⑤現代の思想と人間像 １．心の深層と無意識 ３．近代的理性と言語 ２．生の哲学と現象学	○	○ ○ ○	○	○	a:　現代思想の特徴はどこにあるかを考える意欲が高まっている b:　現代の思想が、理性に信頼を置く近代の人間像を問い直そうとしている点で共通していることを考察している c:　現代思想が表現されている作品（映画・漫画・本など）を鑑賞し、そのどこに現代思想が現れているか、表現することができる d:　現代思想について理解し、これからの生き方につなげることができている	授業時の発問 資料読解 ノート提出 テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。